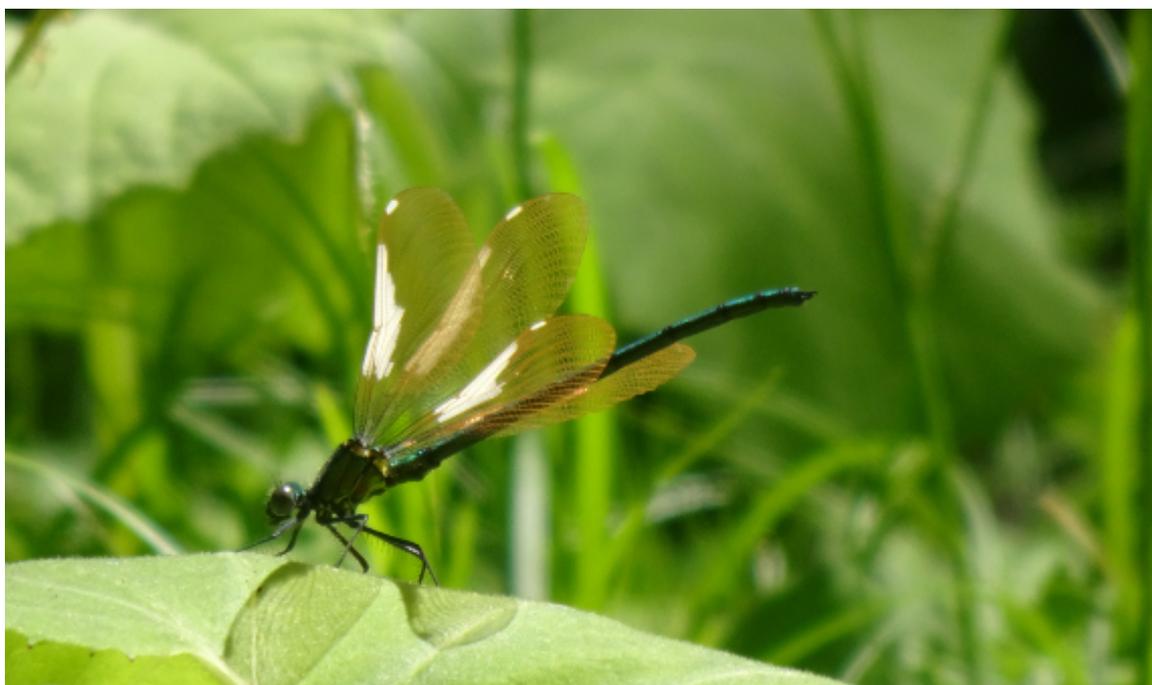


仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2022年6月号

森のおくりもの 6

NO.369 The Gift from Woods

ニホンカワトンボ（カワトンボ科）



自然観察センター前のカタクリの広場に白い模様が入っているトンボがいるのを見つけました。図鑑で探してもこの姿のトンボが見つかりませんでした。翅に色があるカワトンボの説明の中に、「不透明斑が発達する」の一文を見つけました。どうやら、ニホンカワトンボの橙色翅タイプ（翅色は無色、淡橙もある）の若い個体のようです。

昨年、自然観察センターで確認できたトンボは8科14種類で、カワトンボ科3種類のうちの1種でした。当センター内では時期に合わせて昆虫標本の展示も行っており、「初夏のトンボ」標本箱にはニホンカワトンボの橙色翅タイプと無色翅タイプが収められています。

また、シュレーゲルアオガエルの生体展示も始まりましたので、是非ご覧ください。

【文：館長 佐藤由美】

森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

『止まない雨はない』（やまないあめはない）

間もなく雨の季節を迎えます。東北南部の平年の梅雨入りは6月12日だそうです。今年の梅雨入りは、全国的に早いと予想されていますが、どうなるのでしょうか。本来は恵みの雨なのですが、ジメジメした空気で気分がすぐれないのと野外での活動が制限されることや、災害が発生する恐れがあるため、天気が気になる時期です。

何日も降り続き、毎日雨でうんざりしたときに「止まない雨はない」と言うことはありませんか？梅雨だといっても、何週間も雨が降り続くわけではなく、当然いつかは止みますし、梅雨の晴れ間もあります。このように当たり前のことをカッコよく言って、なるほどと思わせる言葉が格言になっていると思いました。『止まない雨はない』は、よく使われていますが、実は誰が言ったかわからないようです。類義語に「明けない夜はない」がありますが、こちらはシェイクスピア作の『マクベス』にあるセリフからきている説などがあり、そこから似た言葉が考えられたのではと推測します。どちらも「悪い状況はずっと続くわけではなく、耐えれば必ず良いことがある」という意味です。

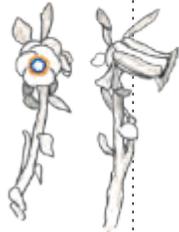
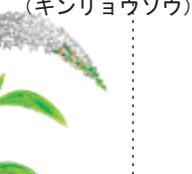
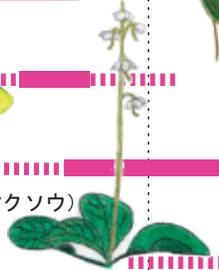
太古の地球では、年間降水量が10mを超えるもの凄い量の雨が1,000年近く降り続いたと考えられ、その結果海ができたとされています。仙台の年間降水量が1.25mとのことなので、そのおよそ8倍以上の大雨が1,000年も続くなんで驚きです。また、海は微惑星の衝突によって何度も蒸発したと考えられているようなので、度々長い期間大雨が降っていたということにもなります。

現在、様々な問題が次々と起こり、誰しも困難な状況に置かれて世の中に閉塞感が流れている気がします。太古の大雨だってちゃんと止み、その後に生命の母である海ができました。「止まない雨はない」のだから、耐えればいつかきっといいことがあると希望を持ちたいですね。【レンジャー：新田隆一】



6月の生物ごよみ

植物

	5月		6月	7月	
	下旬	月上旬	中旬	下旬	月上旬
マルバダケブキ (マルバダケブキ)	[Pink bar from May 20 to May 31]				
サイハイラン (サイハイラン)	[Pink bar from May 15 to May 31]				
ギンリョウソウ (ギンリョウソウ)	[Pink bar from May 1 to May 31]				
ネジキ (ネジキ)	[Pink bar from May 15 to May 31]				
イチヤクソウ (イチヤクソウ)	[Pink bar from May 15 to May 31]				
オカトラノオ (オカトラノオ)				[Pink bar from June 1 to July 10]	

右の写真は5月19日に『ヨシの湿地』で撮影したシュレーゲルアオガエルの画像です。下の大きいカエルが雌で上のカエルが雄です。シュレーゲルアオガエルは4月後半から6月にかけて、ヨシの湿地周辺で『カタカタカタッ』という鳴き声が聞かれます。ちょうど産卵の時期で次の日にはメレンゲ状の卵が水際に産まれていました。毎年5月の中旬に産卵が始まりますが今年は少し遅れ、5月末にたくさんの卵塊が産まれました。センターに生体展示もしていますのでどうぞお越しください。



動物

	5月		6月	7月	
	下旬	月上旬	中旬	下旬	月上旬
サンコウチョウがさえずる (5月18日にさえずりを確認)	[Pink bar from May 18 to July 10]				
カブトムシが現れる (カブトムシ)				[Pink bar from June 15 to July 10]	
ゲンジボタルが夜空を舞う (ゲンジボタル)				[Pink bar from June 25 to July 10]	
ニイニイゼミが鳴き始める (ニイニイゼミ)				[Pink bar from June 25 to July 10] (昨年(2023年)の初鳴きは6月25日でした)	

【レンジャー：齋 正宏】

※さえずり 繁殖期や縄張り宣言の時に出す鳥の美しい鳴き声。ただしさえずりと地鳴きの明確な区別はなく、一般的に複雑で長い鳴き声を「さえずり」と呼んでいる。

森の「あれこれ」



「オオルリ！ オオルリ？」



5月の上旬、センター近くのクヌギの高木のでっぺん近くでさえずるオオルリの雄を観察していました、と言うより、美しい歌と姿に見とれていました。瑠璃色の背中に白いおなか、“ピーリーリー”とスローテンポのソプラノに歌い終わりの“ジジ”というアクセントが特徴のラブソングを聴くと、私は初夏だなあと、感じます。ひとしきり歌った後、彼は後ろの林に姿を消しました。



2分後、同じクヌギの真ん中あたりに別の一羽がやって来ました。立ち姿や体の色、模様などでオオルリの雌に間違いなく、きっとさっきの雄とカップルだと思っていたら、先ほどの雄が戻ってきて猛然と彼女を追いかけて追いついてしまいました（写真撮れず）。「雄は、なわばりを守り、雌に来てもらうためさえずる」という常識とは正反対の行動です。野鳥好きの識者に意見を求めると「すでに正式な彼女がいるのでは」→なるほど。「女嫌いのオオルリでは」→いや、ちょっと待て（笑）。事実にならば近づくためには、もっと多くの緻密な観察が必要なのでしょうが、様々なできごとに対して、あれこれと推測をしていくのは自然観察の楽しみの一つでもあります。

新緑は日増しに濃くなります。5月の中旬にはサンコウチョウがやって来ましたが、下旬にはコサメビタキの巣立ち雛を見かけました。6月に向かって、観察の森はますます命にあふれていきます。【レンジャー：木田秀幸】

森は糸



森は布

森は様々な生き物が互いにつながって
森として生きているんですね (*_*)

2種類のランの花が咲いていました。写真①のランは大きな2枚の葉から花序を長く出し、葉と同じ薄い緑色の花を付けています。5月下旬ごろ写真②のようなユリの芽生えのような芽が顔を出し、しばらくして花を咲かせます。花の部分拡大した写真が③です。赤マルは3枚の萼です。黄色のマルは萼と同じ色をした花弁で、3枚ありますが1枚は隠れて見えません。黄色の三角じるしは雄蕊雌蕊が合わさった蕊柱(ずいちゅう)です。ラン科の花は多くがユリ科と同じように、萼、花弁共に3枚ずつあるのが特徴です。虫媒花ですから虫を呼び込むのに都合のいい形をしているのですが、不思議な形をしていますね。このランは「クモキリソウ」です。花が何となくクモのようにも見えますね。でも名前の由来にはいろいろな説があるようですよ。 …(^_^♪



写真④もランの仲間ですが、クモキリソウとはずいぶん違って見えますね。まず色は緑ではありませんね。葉も無いように見えます。写真⑤は芽生えの時のものですが、枯れ枝が顔を出したように見えます。花を拡大したものが写真⑥です。赤マルが萼で3枚、黄色マルが花弁で3枚、そして蕊柱があり、確かにランの花の特徴が見られます。このランはムヨウランの仲間の「ホクリクムヨウラン」だと思われます。体に葉緑体をもっていないので光合成できません。では、どのようにして養分をとっているのでしょうか。実は地中の菌類から養分をすべてもらっているのです。ランの仲間は、たとえクモキリソウのように自分で光合成をしても、一部は菌から養分をもらわないと生きていけません。ランの種子も菌の助けなしには発芽ができません。菌との関係が崩れてしまうとたちまち姿を消してしまうランを見守りたいですね。…(^_^♪【レンジャー：菅原幸彦】

6月のイベント & お知らせ

イベント

新型コロナウイルス感染拡大や天候の急変等でイベントについても変更となる場合がありますので、観察の森のブログ等でご確認お願い致します。

参加の際、新型コロナウイルス感染対策のため同意書の記入をお願いしています。

◆「おはよう野鳥かんさつ」

【日 時】6月11日(土)6:30~8:00

【対 象】15名 (中学生以下は保護者同伴)

【内 容】雑木林を歩きながら野鳥を観察します。

【持ち物】飲み物、雨具、帽子、歩きやすい服装と靴、双眼鏡(あれば)

【申込み】6月7日(火)午前9時より電話受付(先着)



◆「夜の森の観察会」

【日 時】6月26日(日)19:00~20:30

【対 象】小学生以上 20名 (中学生以下は保護者同伴)

【内 容】ホタルやセミの羽化など、夜間に活動する生物や自然現象を観察しながら歩きます。

【持ち物】懐中電灯、飲み物、雨具、歩きやすい服装と靴

【申込み】往復はがきにて参加者全員の氏名・年齢・住所・電話番号を明記して6月14日(火)必着で。(抽選)



ガイドウォーク

毎週日曜日開催
申込み不要、どなたでも参加できます。

開催日: 5日, 12日, 19日, 26日

時 間: 10:00~11:30, 13:30~15:00

(午前と午後の2回開催)

休館日



6日, 13日, 20日, 27日

毎週月曜日休館、月曜日が
祝祭日の場合は火曜日休館

観察の森へのアクセス



宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
- ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
- ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分

【行先】①②③「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」

※③のみ「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」

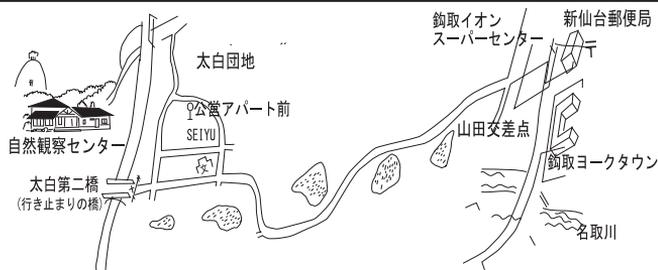
いずれも 公営アパート前 下車 → 徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。

道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。

駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財)仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター